



<http://www.edu.satsumasendai.jp/ichihino-e/>

教育目標 「ふるさとを愛し、確かな学力、豊かな心を持ち、主体的に行動できる子供の育成」

第11号 令和7年3月17日発行

薩摩川内市立市比野小学校

薩摩川内市樋脇町市比野2805番地

TEL 38-0014

本年度もありがとうございました

校長 長崎 克則

私は、さまざまな場面において、子どもたちに「みんなはやれる力をもっています。」ということをお伝えしたいと考えてきました。

自分が目指す目標に近づくために、日々コツコツと努力をすることは素晴らしい。そして、目標を達成し「できた」という結果を得ることはとても嬉しいことでしょう。

さらに、目標に向かって努力を続けたことや失敗を乗り越えた経験はこれからの自分の人生において自信につながり、伸びる力の原動力にもなるのです。

市比野小の子どもたちは、この一年間よく努力を積み上げてきました。

そして、それぞれの学年に応じて、自分のできることも確実に増えてきています。

その中には、学力や体力とともに【人とつながる力】・【コミュニケーション力】もあります。さまざまな課題に出会ったとき、自分で考え解決しようとする力は生きていく上でとても重要な力です。

もとより、子どもは（私たち大人も）、「より良く生きたい」という強い願望を持っているのではないのでしょうか。「大切なのは、単に生きることではなく、より良く生きることだ」というソクラテスの言葉も思い出されます。

この一年間、子どもたちはみんなで協力しながら一つ一つの行事を頑張ってきました。その取組の中で、それぞれに自信と誇りを身に付けてきたのではないかと思います。児童がそれぞれの学年で学んだこと、教えられたこと、気付いたこと、それらがすべてこれからの生き方につながっていくと確信しています。

令和6年度も保護者・地域の皆様の御理解と御協力を賜りましたことに感謝申し上げます。新年度からもこれまで通りの御高配を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

おめでとうございます

第12回川薩地区新聞よむのびコンクール

販売所長賞 6年 大寺 美琴さん 5年 笹森 恵翔さん 4年 古川 莉奈さん



手話、車椅子、視覚障害者体験から学んだこと—6年生ふるこみ—

「アナウンスが聞こえないと、電車に乗りづらいんだな」「ちょっとした段差でも車椅子だと大変だな」「目が見えない方への介助は、腕をつかんでもらって少し前を歩くようにすればいいんだな」など、障害者の方のお話を聞いたり、実際に体験してみたりすることで、いろいろなことに気付くことができた6年生です。ノーマライゼーションの社会が実現できるよう、自分にできることを考え、取り組んでほしいです。



【手話体験の様子】



【車椅子体験の様子】



【視覚障害者の体験の様子】

寒かったけど、楽しかった！—6年生を送る会・お別れ遠足2/21(金)—

学校で行った児童集会では、6年生とじゃんけんをして、勝ち進んでいくレクリエーションが大いに盛り上がりました。6回連続してじゃんけんには勝つのは難しいようでした。そして、お別れ遠足は、天気に恵まれ丸山公園に行くことができました。6年生を送る会は、各学年が心温まる出し物をして、6年生に感謝の気持ちを伝えることができました。6年生の表情もにこやかでした。児童集会や6年生を送る会を企画・運営してくれた5年生のみなさんも頼もしかったです。こうやって6年生から5年生へとバトンが引き継がれるんだなあと思いました。



【レクリエーションの様子】



【企画・運営をがんばった5年生】



【6年生への出し物をしている様子】

練習の成果を出してがんばった！—なわとび大会 2/26(水)—

12/3の持久走大会が終わった次の日からの体力づくりの目標は、このなわとび大会に向けてでした。それぞれの目標に向かってがんばった子供たちです。温かい御声援をありがとうございました。なわとび運動は、持久力はもちろん、筋力、動きを調整する力が高まるなど、体力づくりにもってこいの運動です。しかも、一人で、わずかなスペースがあればできます。なわとび大会で終わりではなく、継続して取り組んでいけるよう声かけをしていきたいと思っています。



【持久跳びをがんばる1・2年生の様子】



【長なわ跳びで記録に挑戦する4年生の様子】

4月の行事予定



- 4日(金) 新6年生入学式準備
- 7日(月) 始業式、入学式
- 8日(火) 学力(NRT)検査(～9日)
- 10日(木) 身体計測、知能検査(2, 4, 6年生) 検尿(～11日)
- 16日(水) 交通安全教室
- 17日(木) 全国学力調査(6年生)
- 18日(金) 学級PTA、PTA総会、専門部会
- 24日(木) 集団下校訓練
- 28日(月) 心臓検診(1年生)
- 30日(水) 1年生を迎える会
- ※ 8日(火)～14日(月) 家庭学習4090運動強調週間

楽器寄贈式(田苑酒造)～3/7(金)～

「焼酎が音楽を聴いている」で有名な田苑酒造様から、「トーンチャイム」と「木琴の修理部品」を寄贈していただきました。学校を代表して4年生が式に参加し、トーンチャイムを使って演奏しました。「音楽で子供たちが元気に!」という田苑酒造様からのメッセージをいただいたので、楽器を大いに活用して市比野小を元気にしていきたいです。



魅力ある学校づくりコーナー

親子で一日 20 分読書、取り組んでいますか。
おすすめの本を紹介します！



私のおすすめの本 ～バツタを倒しにアフリカへ～

虫取り網をかまえ、ポーズをとる全身緑色のバツタ男。ユニークなタイトルとスタイル。思わず「どんな話なんだろう。」と、この本を手にした時点で、私たちはすでに作者、前野さんの作戦にはまっているといえるでしょう。

前野さんはれっきとした博士、それも世界の第一線で活躍する「バツタ博士」です。モーリタニアにある研究所の所長に「アフリカを救うためにバツタ研究に人生を捧げる。」と宣言し、「ウルド」というミドルネームを授けられているのです。

前野さんが研究の対象にしているのはサバクトビバッタ。このバツタは、ひとたび大発生が起ると、群れは数百億匹にも達し、東京都ほどの面積がバツタに食べ尽くされてしまいます。

年間の被害総額は西アフリカだけで400億円以上。アフリカにおける深刻な貧困の一因となっていることはみなさんご存じでしょう。つまり「バツタ研究によりサバクトビバッタの駆除が成功すれば、アフリカを救うことができるのです。」

しかし、研究は言葉や習慣・考え方の違いからくるトラブルや資金不足の問題、さらには、異状気象の影響でなかなか進みません。

前野さんは、それらのハプニングに苦勞を重ねながらも、一つ一つ解決しながら研究を進めます。前野さんの武器といえば情熱と人柄そのものです。

軽妙でユーモラスな文章・テンポのよい構成で話は展開していきますが、前野さんの行動の根底には「絶対に昆虫学者として食べていく。」という真摯な気持ちがあることが伝わってきます。例えば研究資金確保のために、目立つ格好をしてSNS等も駆使し、PR活動もしていくこともあるようです。だから、彼は真面目にふざけているといえるでしょう。

そして、遠い遠いアフリカの地で人生を懸けて全力でバツタを追いかけている若者がいる。

同じ時代に、こんな研究者がいることを知って、なんだか元気がわいてくる本です。

※ 子供向けのジュニア版も発刊されましたので紹介します。 長崎 克則



2月のおひさま会の様子です。

おひさま会は、読み聞かせだけではなく、子供たちが楽しむイベントもあり、毎回、いい笑顔で帰っていく子供たちの姿が印象的です。企画・運営に関わってくださった保護者の皆様、どうもありがとうございました。